

市民と市長との対話集会を開催

10月に、学生や子育て世代、市民団体と市長との市政に関する対話集会を開催しました。

上越公務員・情報ビジネス専門学校
校の生徒から「人口減少などにより、若者と高齢者が関わる機会が減っている。地域でのつながりを増やすためにはどうすればよいか」と質問があり、市長は「世代によって、気持ちや感覚が違う。人口減少が進む中でも、心豊かに暮らしていくため、その差を埋めていくことが重要」と話しました。

柿崎子育てひろばを利用する子育て世代の人たちからは、「地域に子どもが少ない印象がある」との声が



上越公務員・情報ビジネス専門学校



柿崎子育てひろば



上越やまざと暮らし応援団

あった一方で、「地域の皆さんに支えられながら子育てが行えている」という意見が出るなど、子育てに関するさまざまなお話を伺いました。大島区や吉川区などで市内への移住者の支援等に取り組む市民団体「上越やまざと暮らし応援団」からは、市外から移住したメンバーが当市を選んだ理由や、中山間地域で暮らしふりなどが話題にのぼる中で、「移住者向けの情報など、市は柔軟に情報を発信してほしい」との要望があり、市長は「しっかりアンテナを張って、どうやって情報を発信していくか考えていきたい」と答えました。

水族博物館うみがたりがマゼランペンギンの生息域外重要繁殖地に指定



チュブ州のネストル観光省大臣（写真左から2人目）と附属文書を締結

10月14日から20日までの間、野口副市長などがアルゼンチン共和国のチュブ州を訪問し、16日、当市とチュブ州政府が昨年2月に締結した「マゼランペンギンの保全に関する協力協定書」の附属文書を締結しました。

附属文書では、マゼランペンギンの研究や保全活動および飼育繁殖に関わる情報・技術の交換に関する協力について定めており、当市の水族博物館が準絶滅危惧種のマゼランペンギンの保全にとって重要な施設（生息域外重要繁殖地）であるという同州政府の指定を国内で初めて受けました。

今後も引き続き、同州と交流を積み重ね、マゼランペンギンの保全に取り組んでいきます。



チュブ州が自然保護区として管理しているマゼランペンギンの世界最大の繁殖地「ブントンボ」

神原康政公ゆかり四市市長懇談会を開催

10月24日、榊原家第17代御当主、愛知県豊田市、群馬県館林市、兵庫県姫路市の各市長をお招きし、榊原康政公ゆかり四市市長懇談会を開催しました。

懇談会は、昭和60年に当時の豊田市長の発案で「徳川四天王と称された榊原康政公にまちづくりを学ぼう」と榊原家にゆかりの深い四市で発足。毎年四市が持ち回りで開催し、テーマを決めて意見交換を行っています。

今年は「人口減少への対応」をテーマに、村山市長が高田の町家を活用した街の再生について紹介し、三市の市長からは空き家バンクの成功事例や市周辺地域全体がイメージアップする



ための施策の推進、廃校のリノベーションなどの取り組みが紹介されました。

写真左から、清元姫路市長、太田豊田市長、榊原家第17代御当主の榊原政信さん、須藤館林市長、村山市長